

## 令和2年度第1回岡崎市観光基本計画推進委員会 議事録概要

- 1 日 時 令和3年3月5日（金）15時00分～16時46分
- 2 場 所 岡崎市役所西庁舎7階701号室
- 3 会議の議題 別紙次第のとおり
- 4 出席した委員（敬称略）  
高橋一夫、山中賢一、新家智明、氏原久元、田下貴幸、竹内博剛、西尾孝志、野村顕弘、天野裕、竹本佳恵、青木鉄彦
- 5 欠席した委員（敬称略）  
長瀬正明
- 6 その他の出席者（敬称略）  
オブザーバー 愛知県観光協会専務理事 榊原仁  
岡崎市観光協会理事長 靱井泰晴
- 7 事務局出席者  
経済振興部長 植山論、観光推進課長 安藤治樹、同副課長 田中典子  
同課家康公係長 梅澤秀一、同主任主査 吉村隆希、神尾典彦
- 8 開 会  
安藤課長の司会により15時に開催した。
- 9 植山経済振興部長挨拶  
・明るい話題として大河ドラマ「どうする家康」が制作されるということで、コロナ過で落ち込んだ部分を盛り上げていくんだという道標ができた。是非ともこれを起爆剤に岡崎の観光をしっかりと進めていきたい。
- 10 委員自己紹介  
委員自己紹介。あわせてオブザーバー、事務局からも自己紹介した。
- 11 委員長・職務代理者選出  
設置要綱第2条により委員長を互選し、高橋委員が委員長に選出され、職務代理者として山中委員が指名された。

## 12 議題

### (1) 岡崎市観光基本計画アクションプランの進捗状況等について

(資料1及び2に基づき事務局から説明。)

- ・計画期間は平成29年度から令和2年度までということだが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年度の改定作業を見送り、臨時的プランとして「ウィズ・コロナ期観光基本戦略」を策定した。アクションプランについては、次の改定まで現行プランを継続するとしたので、今回は令和3年度の欄を設けている。
- ・「具体的な取り組み」欄に個別施策の内容を記載しており、平成29年度から令和3年度までの期間中の実施状況が、枠の色の有無で判断できるよう表記している。色付きの箇所が実施する年度、白色の箇所は、対象外の年度となっており、令和2年度には主な事項を記載している。
- ・各事業において「コロナ禍により縮小・中止・見合わせ」という文字が目立つ。これに対して、ハード整備は粛々と進捗している状況である。

(以下、資料1及び資料2説明省略)

(委員からの意見・質疑)

- ・他地域との連携はどうだったのか。

事務局) 名鉄キャンペーンを通じ、犬山市と東岡崎駅、犬山駅での相互のPR活動を行った。蒲郡市とは、蒲郡市に泊まり岡崎市に遊びに来るとかの取組をしている。また、セントレアからどう岡崎に来てもらえるか、アフター・コロナを見据え関係機関と検討している。

- ・乙川かわまちづくり事業やQURUWA取組においては、コロナ過で出来ない事業もあったが、屋外空間を使ったイベント等はファミリー層、若い人を中心に来場者を増やした。市外県外に行きづらい中、市民が市内・地元の娯楽、気晴らしを求めたのではないか。河川敷利用のキャンプなども20数区画が稼働率として90%以上埋まった。河川敷など屋外利用の小規模中規模の事業が、人の移動の受け皿や経済活動や観光需要を受け止める部分があったとの印象を受けた。
- ・これら事業が連携すると良いなと思う中、地域通貨が頭に浮かんだ。体験型や消費にカードポイントを付与し、そのポイントがあるがためリピートが期待できるように思う。2年後の家康ブームまでに整備すれば、効率よく楽しんでいただけるのではないかと思う。

### (2) 令和元年度版岡崎市観光白書概要について

(資料3に基づいて事務局から説明。以下省略)

(委員からの意見・質疑)

- ・白書の中身について、一年遅れになっている。出来上がっているのは何月くらいか。

事務局) 国の宿泊統計のデータが遅れ、完成が最近になった。その他のデータは11月くらいには発行できるよう数値は出ていた。

- ・観光関連事業者にとって、こうしたデータは手元に届くのが少しでも早くなると、翌年度のマーケティングデータに活用できる。発表時期を考えてほしい。資料は充実しており、わかりやすいものになっている。次は活用していただくための工夫があると良い。
- ・愛知県ではこの1月に愛知の観光戦略を公表した。元年度のデータは、発行するときには出ているので入手は可能ではないかと思う。発行の時期が令和3年3月ではデータが古いので、発行の際に、コロナ禍の状況を表記するよう工夫したほうが良かったのではないか。観光客入込数などは4月以降激減し、外国人は全く入ってこなかった。そういう状況を記入したほうが良かった。
- ・宿泊客数については観光庁から概要が出ている。外国人がマイナス84%、日本人がマイナス40%、全体でマイナス48%という数値が出ているので、知っておいたほうが良い。
- ・観光入込客数と宿泊者数は平成30年度まで下がり気味で、イベント関係の動員が増えている。これは「かわまちづくり」などは人気があって市内の人を集めるのに効果があったが、市外県外の方を招き入れるのはまだまだ厳しいハードルがあるのかなと感じる。現状については、重点プロジェクトにおいてもコロナ禍の中でもウェブを使ったり、今の状況で出来ることを推進しているので、この部分は効果が高いのかなと思う。最近の傾向では、東海オンエアファンの若い人を中心に岡崎公園などに来られる方が多く、個人の単位は増えてきているが、団体の動きが無いのが対照的であると感じている。
- ・団体バスは極端に落ちている。個人は減ってはいるがある程度は来ている。東海オンエアについては、人数は増えるが、消費につながるかというところにとどまっているのではないか。弊社としては、岡崎を良く知りたいというコアな客をどう引っ張るかを常々考えている。岡崎市には寺社仏閣が多いが、これらをもっと知ってもらい、宿坊とか説法などの体験や、家康が愛した食事などに取り組めば、2年後を見据え、お寺が中心になるようなことも期待している。
- ・コロナ禍における観光戦略は時限的なものだから、今後本格的に議論していくときには、岡崎市の観光の目的は何か、ということ議論する必要がある。様々な方に岡崎に来ていただいて、次に住んでいただける若い方を

含めて対応していくのなら今の流れで良いが、事業者にお金が落ちていくことを考えると、たぶんターゲットが違ってくるのではないか。事業・お金の配分も変わってくるのかもしれない。そもそも観光振興を何のためにやるのかという議論を、次の計画づくりに生かしていくことが必要だ。

- ・たとえば弊社は団体旅行向けの観光会社への営業が強い。ある程度役割分担をして、その誘致に強い営業と観光施設を結び付けるよう、観光協会と協力して組織を立ち上げることを計画している。そこからツアーを組んで施設を回るツアーを弊社が売り込むようなことを考えている。オリンピック後を見据え、今のうちから施設の協力を得ながら準備し、新しい観光を生み出していきたい。
- ・寺社仏閣を中心にとということでありがたい話ではある。しかしながら寺社仏閣側も組織としてはなかなか実行に至るのが難しい。周りが動いてくれているのに、同じ方向を向けないのはジレンマになるところである。

岡崎には大正時代に南北に岡崎市内線があり、そこから豊田までは拳母線が昭和 48 年まで走っていた。その沿線には大樹寺、岩津天神など以外にも多くのまだ知られていない寺がある。かつては電車の停留所から参拝ができたし、神社仏閣のお参りに使われていたことが、電車の利便性を高めていたのではないか。京都なども地下鉄等を利用し、寺巡りがされている。コロナ後を見据えたとき、いろいろな所を回れる人の流れを作るのに、交通の便、車だけではなく公共交通の便が大切になるのではと思う。

### (3) ウィズ・コロナ期観光戦略について

(資料 4・5 に基づいて事務局から説明)

(策定の経緯について) 令和 2 年度が現行プランの最終年度にあたることから、今年度改定作業を行う予定だった。しかしながら、コロナ禍が始まり、桜まつりの縮小、家康行列・花火大会の中止、4 月には緊急事態宣言が出された。

そういう中でも、国の G o T o キャンペーンの前倒しや、県の「あいち観光戦略 2021 - 2023」の策定が進められている状況も明らかになった。

本市においても、魅力づくり事業や資料 1 で示した事業が進んでおり、何かしらの対応が必要であると考えたが、数値目標がしっかり捉えられないことから、改定作業を延期し、その間をつなぐものとして作ったのが、この観光戦略である。(以下、説明省略)

(委員からの意見・質疑)

- ・電車だけでなく、バスやタクシー、飲食やレジャーなどグループで観光に取り組んでいる。公共交通に関しては路線バスもあるが、貸切バスで

の団体客誘致にも努めたい。犬山との連携の話があったが、犬山も城があり川があり、街並みがある。岡崎市も伊賀八幡宮から岡崎城までの伊賀川、乙川あたりで賑やかさがあればと思う。神社仏閣も点としてはあるが、面としての街並みが薄いように感じる。2年後のドラマの放映にあわせて何か協力してできればと思う。ウィズ・コロナ、アフター・コロナでは団体客の早期回復は見込まれず、当面は個人客中心になってくると思うので、その目線で観光に取り組んでいきたい。

- ・家康公は生誕したが、(岡崎では)あまり育ってはいない。だが、岡崎に帰りたい、岡崎を取り戻したいという思いがあったのではないか。これを表現し、ここも見たい、あそこも見たいということになれば良い。

交通の便では、岡崎東ICができ、発展が期待されている。パークアンドライドではないが、移動とまちを見て回り、高速で帰ってもらうことが簡単に出来ると良いと思う。

寺社では、手入れされた庭を持つ寺が多いが、ちょっと見せてもらえたり、お茶が飲めたりすると女性が来る。女性が来ると男性、子供も来るので、女性を何とか取り込みたい。

また、近隣他市では、松平家は豊田にも西尾にも安城にもあるので、それらを取り込むこともできたらと考える。

- ・食の部分について、家康公が愛したのが“なす”と言われ、この地域で生産が盛んなのが“なす”であり、一年中栽培されている。この“なす”を、加工品を含め広めていきたい、ということでJAとしても取組を進めているので、念頭に置いてもらいたい。

また、コロナ過で巣ごもり需要がある。産直店舗でもこれを受け利用も多い。その中で何かできないかなと思うとき、今一度足元を見て取組んで行く必要を感じる。

- ・農家の皆さんにも観光の効果が及び、農家も観光関連事業者です、というようになれば良いと思う。
- ・本日の委員会は、観光基本計画におけるPDCAのCAの部分になる。その意味で観光戦略に時間をかけて議論できると良かった。

寺社については、点になっていて、面につながっていない、と話があったように、山間部にも立派な寺社があっても、交通網がいまいち整備されていなくて観光につながっていない、ということも耳にする。こういったことへの対応も盛り込みながら、また足元の状況も考えながら議論する時間があると良かった。

- ・本日の話を聞き、例えば観光施設の協議会立ち上げ、農家も観光関連事業者、寺社あるいは他市や松平をキーワードにした連携など、協会として取り組んでいかなければならないと感じた。

交通に関しても、縦軸はバス、横軸は鉄道を中心に行っているが、面的にどうやってカバーするのかについては、シェアサイクルも視野に入ってくるのかと思う。こうした環境整備もできるような体力をつけていきたいとも考える。

委員長まとめ) レジャー需要に関しては、イギリスではワクチンが打たれてくるようになって、旅行会社の中には、対前年比 500%の予約状況になっているところもあると聞いている。ワクチンという鎧を着ると、動きも素早くなってくるなあと感じる。だんだんとレジャー需要も戻ってくるだろう。

ただ、宿泊施設関連では、ビジネス客が戻ってくるのかという懸念がある。航空会社でもこれまでのように飛行機を飛ばすことができず、新たなビジネスモデルを考え始めているようだ。

ビジネスとレジャーが両輪で本来回らなければいけないところが、レジャーだけということになると、観光関連事業者にとっては、従来どおりの観光が元に戻るのかが、かなり不透明な状況がしばらく続くだろう。

我々は、いち早く様々な所から情報をとり、関係者にヒアリングを重ねて、岡崎としてこの先どうしていくかを議論していかなければならない。

委員の皆様にも、日々の状況を市に提供することによって、ウィズ・コロナ、アフター・コロナの観光戦略が修正できることにつながるのので、皆様のご協力をお願いします。

(以上、議事終了。)

### 13 閉会

16時46分に閉会した。